

第54回 県政に関する世論調査の結果について

千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2469

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は平成29年度1回目の調査で県内在住の満18歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、福祉、観光、千葉県の農林水産物、防災に関する取り組み、地方分権、広報・広聴活動について県民の意識調査及び「県政への要望」についての調査を行いました。

1 調査の設計

(1) 調査対象 千葉県在住の満18歳以上の男女個人

(2) 標本数 3,000人

(3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(4) 調査方法 郵送法(郵送配付 - 郵送回収)

(5) 調査時期 平成29年12月22日～平成30年1月17日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,456(48.5%)

3 調査の項目

(1) 県民意識調査

環境と生活について

健康について

福祉について

観光について

千葉県の農林水産物について

防災に関する取り組みについて

地方分権について

広報・広聴活動について

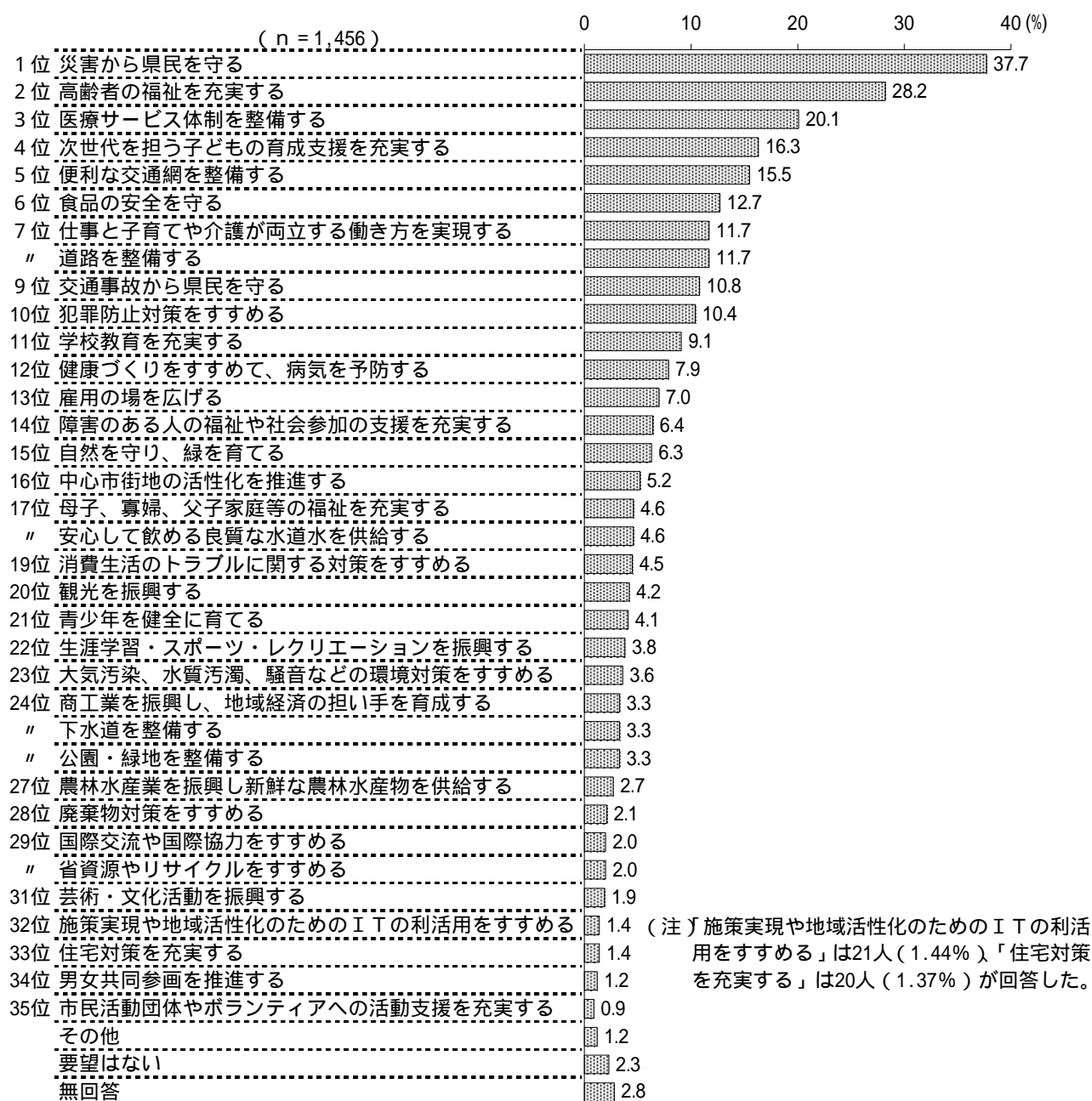
(2) 県政への要望

4 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

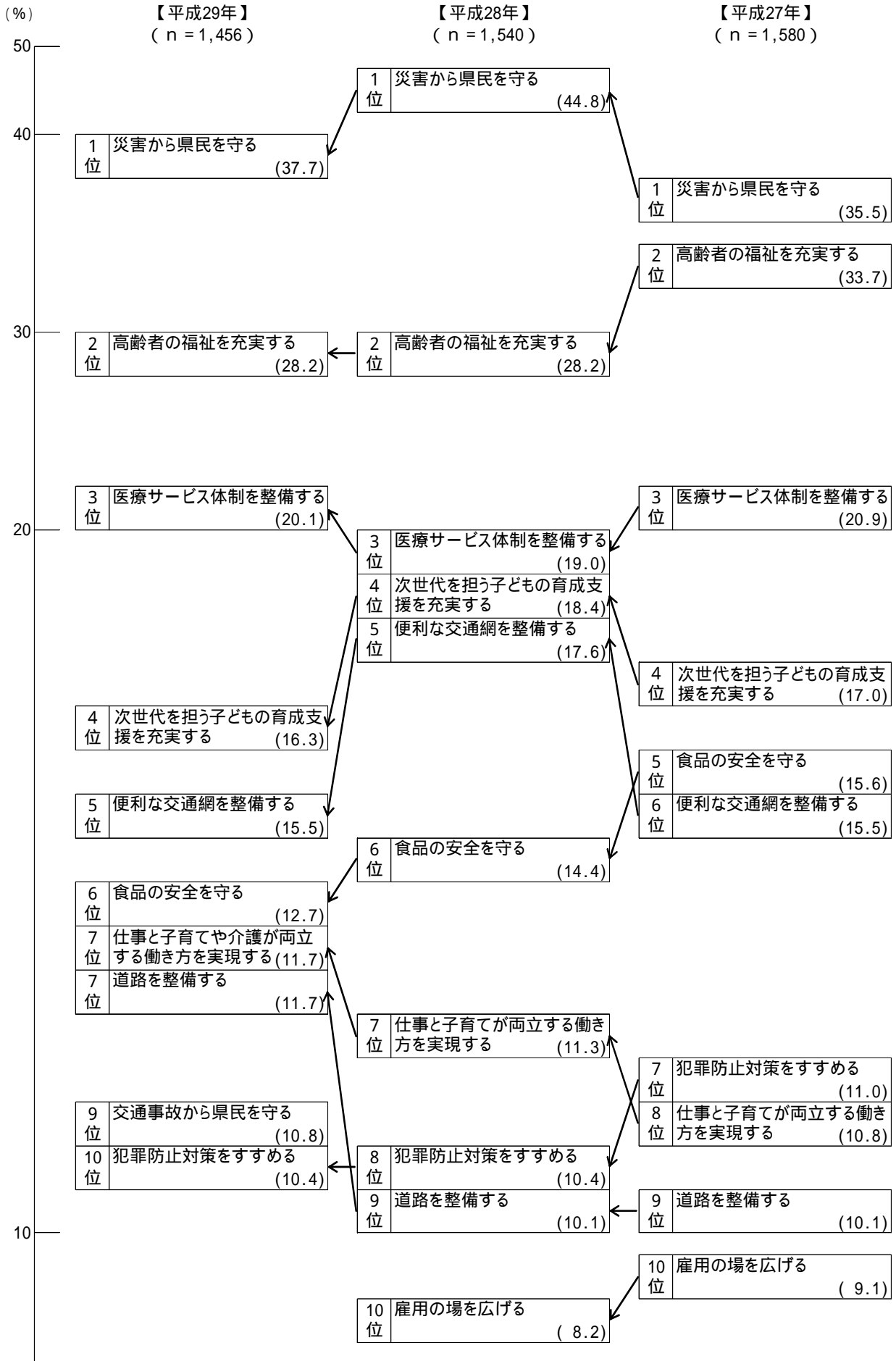
(複数回答：3つまで)



今回調査の主な特徴

1. 「災害から県民を守る」は平成28年度(44.8%)に引き続き1位(37.7%)となっているが、7.1ポイント減少している。
2. 「高齢者の福祉を充実する」は平成28年度(28.2%)に引き続き2位(28.2%)、「医療サービス体制を整備する」は平成28年度(19.0%)に引き続き3位(20.1%)となっている。
3. 4位の「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」(16.3%)、5位の「便利な交通網を整備する」(15.5%)、6位の「食品の安全を守る」(12.7%)、同率の7位の「仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する」(11.7%)も平成28年度と同じ順位となっている。
4. 「道路を整備する」は平成28年度の9位(10.1%)から同率の7位(11.7%)に、「交通事故から県民を守る」は平成28年度の11位(7.5%)から9位(10.8%)に順位を上げている。一方、「雇用の場を広げる」は平成28年の10位(8.2%)から13位(7.0%)に順位を下げている。

県政への要望 / 上位 10 項目の推移



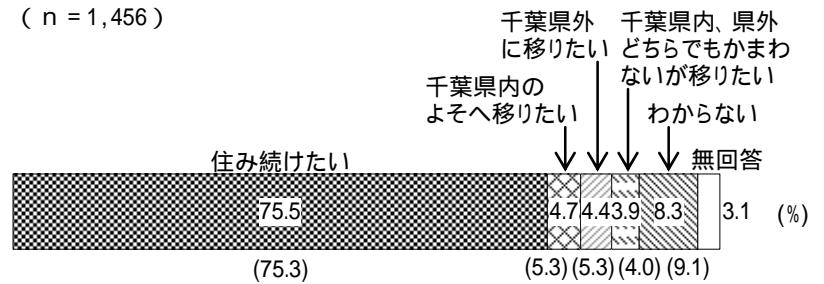
2 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(75.5%)が7割台半ばで、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(4.7%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい(計)』(80.2%)が8割で高くなっている。

一方、「千葉県外に移りたい」は4.4%、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」は3.9%である。

(n = 1,456)

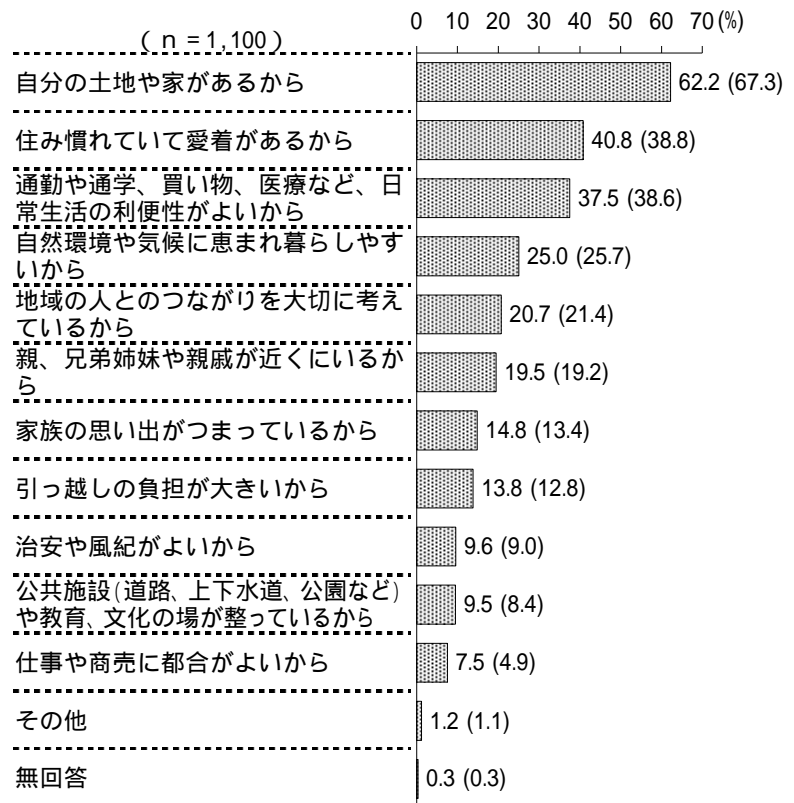


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した1,100人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(62.2%)が6割を超えて最も高く、以下、「住み慣れていて愛着があるから」(40.8%)、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性がよいから」(37.5%)が続く。

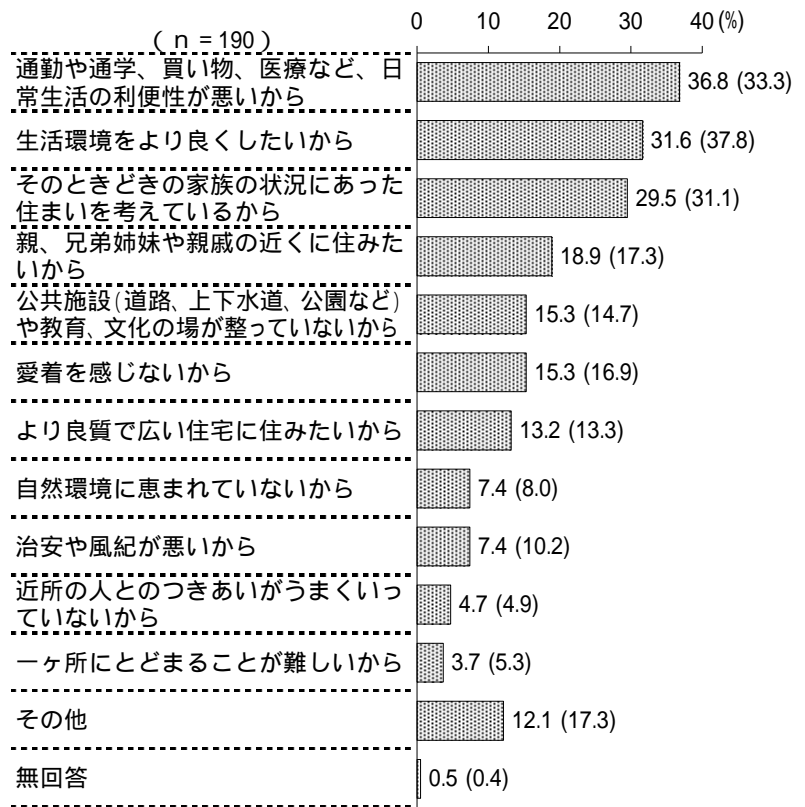


注) () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(1 - 2) 移りたい理由

(複数回答 : 3 つまで)

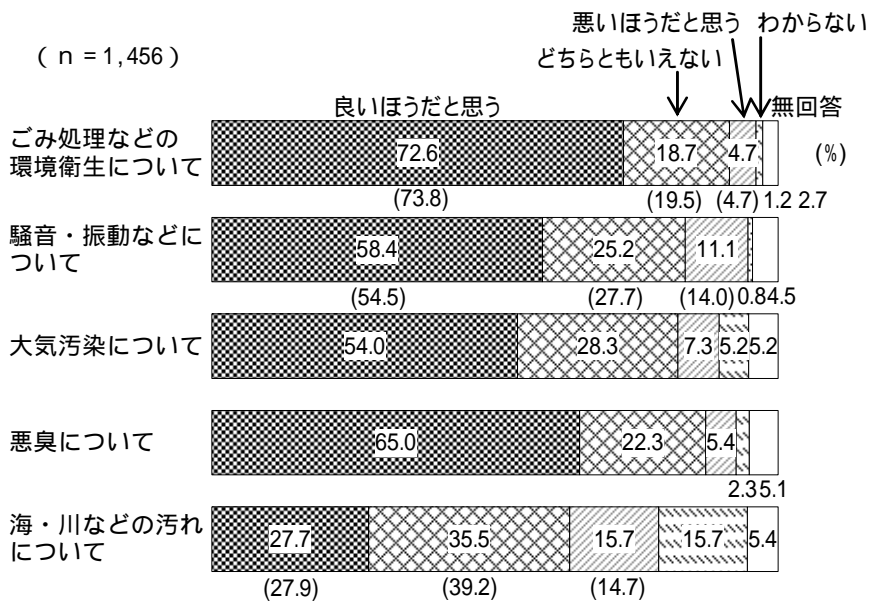
「千葉県内のよそへ移りたい」、
「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、
県外どちらでもかまわないが移り
たい」と回答した190人を対象に、
移りたい理由を3つまで選んで
もらったところ、「通勤や通学、
買い物、医療など、日常生活の利便性
が悪いから」(36.8%)が3割台半ば
で最も高く、以下、「生活環境をより
良くしたいから」(31.6%)、「その
ときどきの家族の状況にあった
住まいを考えているから」(29.5%)
が続く。



注) () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(2) 生活環境について

生活環境に関する5つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは ごみ処理などの環境衛生について (72.6%) が7割を超えており、以下、悪臭について (65.0%) が6割台半ば、騒音・振動などについて (58.4%) が約6割で続く。
一方、「悪いほうだと思う」は、海・川などの汚れについて (15.7%) が1割台半ば、騒音・振動などについて (11.1%) が1割を超えている。

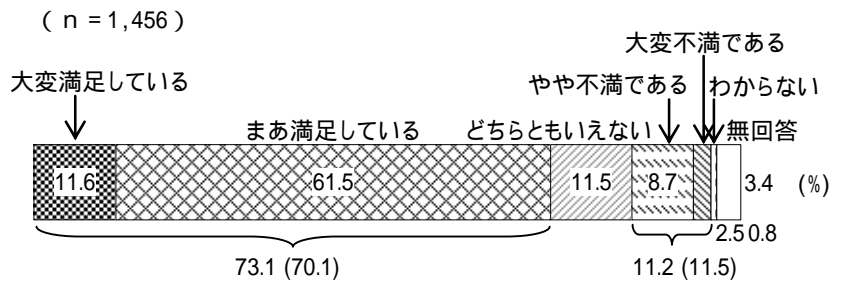


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(3) 生活環境全般の満足度

生活環境全般に関する5つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(11.6%)と「まあ満足している」(61.5%)を合わせた『満足している(計)』(73.1%)が7割を超えて高くなっている。

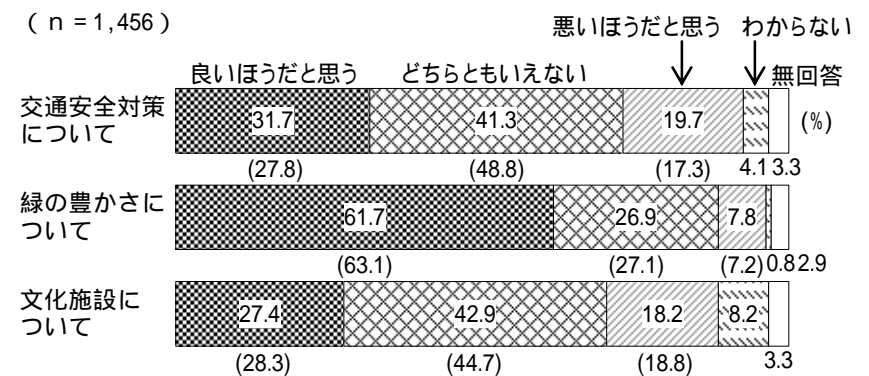
一方、「やや不満である」(8.7%)と「大変不満である」(2.5%)を合わせた『不満である(計)』(11.2%)は1割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(4) 自然・周辺環境について

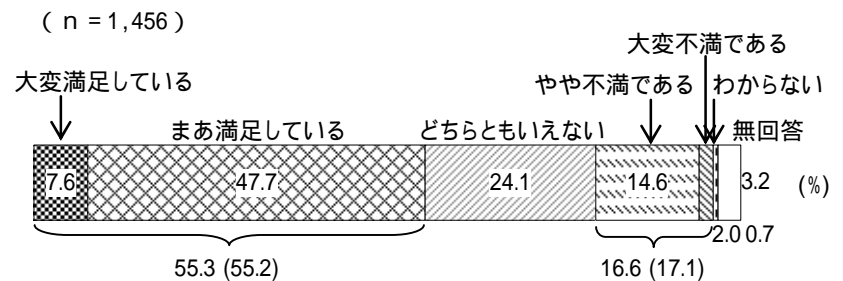
自然・周辺環境に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは緑の豊かさについて(61.7%)が6割を超えており、以下、交通安全対策について(31.7%)が3割を超え、文化施設について(27.4%)が約3割で続く。



(5) 自然・周辺環境全般の満足度

自然・周辺環境に関する3つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(7.6%)と「まあ満足している」(47.7%)を合わせた『満足している(計)』(55.3%)が5割台半ばで高くなっている。

一方、「やや不満である」(14.6%)と「大変不満である」(2.0%)を合わせた『不満である(計)』(16.6%)は1割台半ばとなっている。

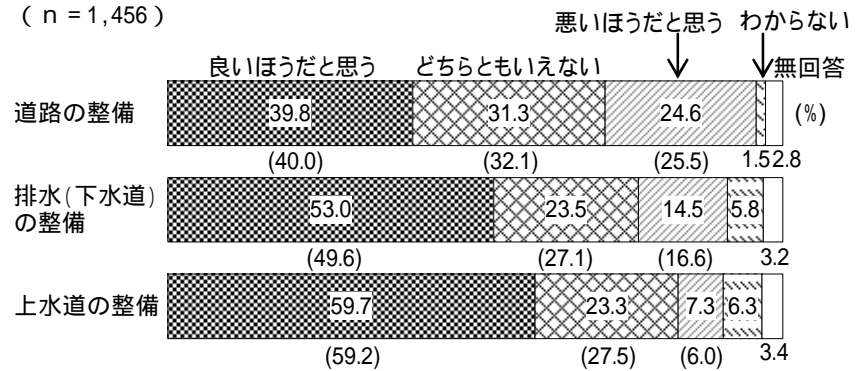


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(6) 基盤整備について

基盤整備に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、上水道の整備（59.7%）が約6割となっており、以下、排水（下水道）の整備（53.0%）が5割を超え、道路の整備（39.8%）が約4割で続く。

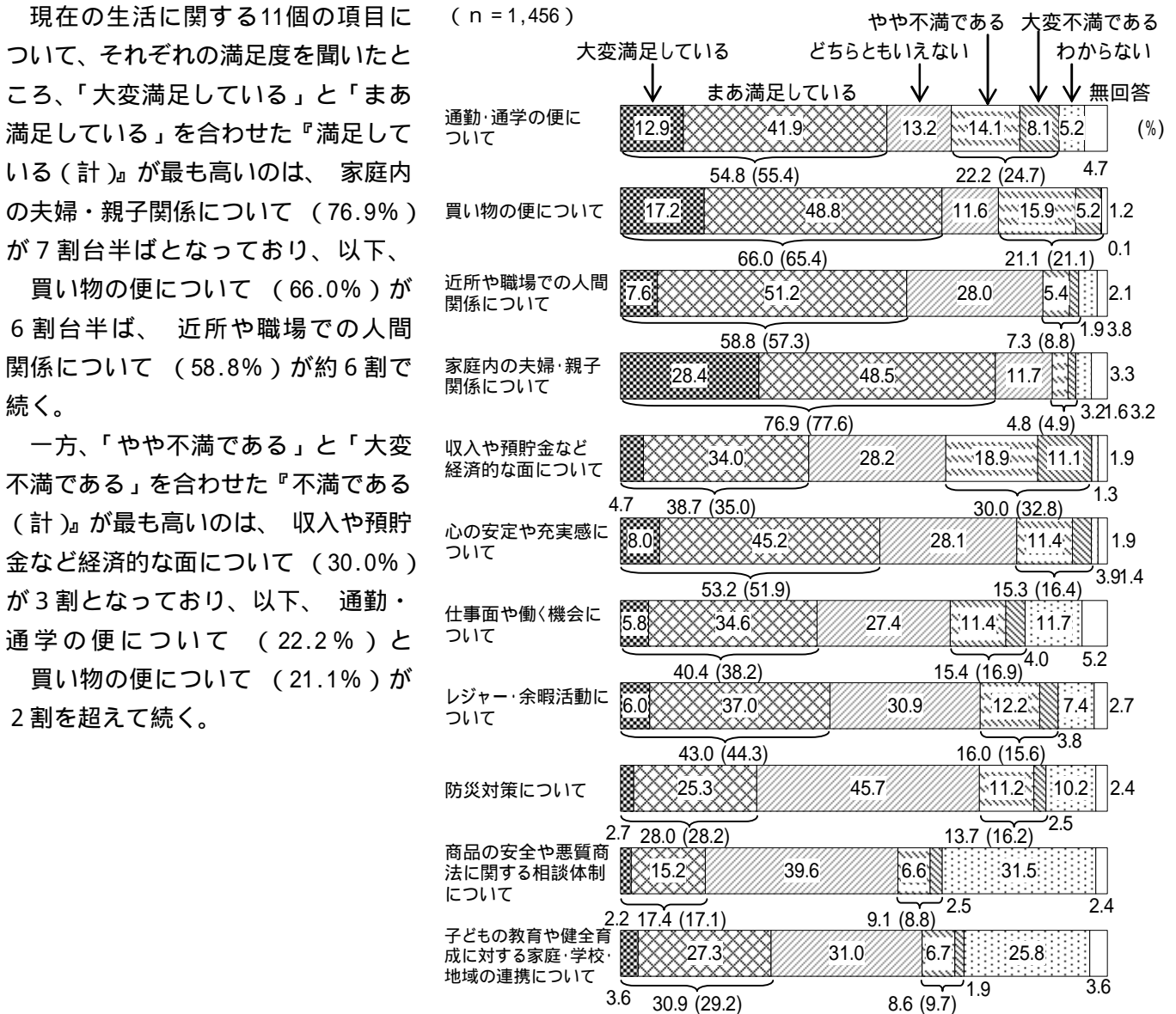
(n = 1,456)



(7) 現在の生活の満足度

現在の生活に関する11個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している(計)』が最も高いのは、家庭内の夫婦・親子関係について（76.9%）が7割台半ばとなっており、以下、買い物の便について（66.0%）が6割台半ば、近所や職場での人間関係について（58.8%）が約6割で続く。

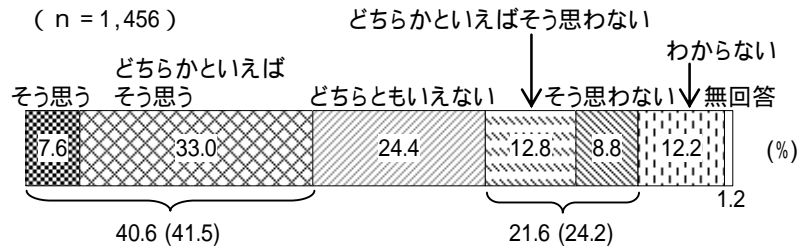
(n = 1,456)



(8) 犯罪が起こりにくいまちづくりについて

お住まいの地域で、犯罪が起こりにくいまちづくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(7.6%)と「どちらかといえばそう思う」(33.0%)を合わせた『そう思う(計)』(40.6%)が4割で高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.8%)と「そう思わない」(8.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(21.6%)は2割を超えている。

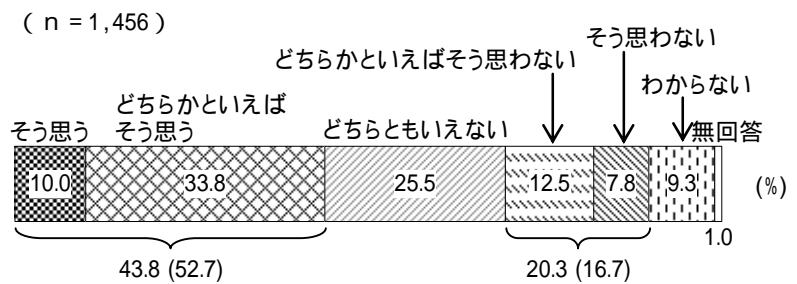


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(9) 「もの」を大切に作る社会づくりについて

「もの」を大切に作る社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(10.0%)と「どちらかといえばそう思う」(33.8%)を合わせた『そう思う(計)』(43.8%)が4割台半ばで高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.5%)と「そう思わない」(7.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(20.3%)は2割となっている。

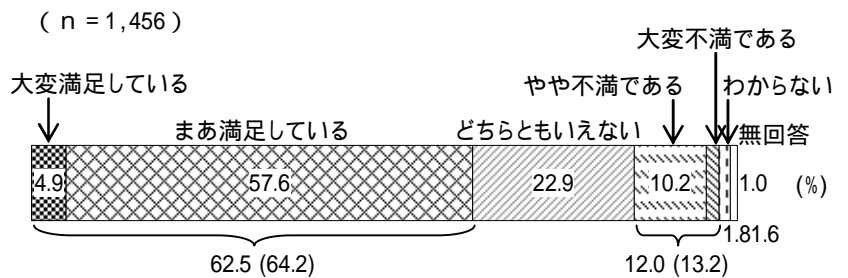


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(10) 住生活全般の満足度

現在の住生活全般(住まい・環境・地域社会)に関する満足度を聞いたところ、「大変満足している」(4.9%)と「まあ満足している」(57.6%)を合わせた『満足している(計)』(62.5%)が6割を超えて高くなっている。

一方、「やや不満である」(10.2%)と「大変不満である」(1.8%)を合わせた『不満である(計)』(12.0%)は1割を超えている。

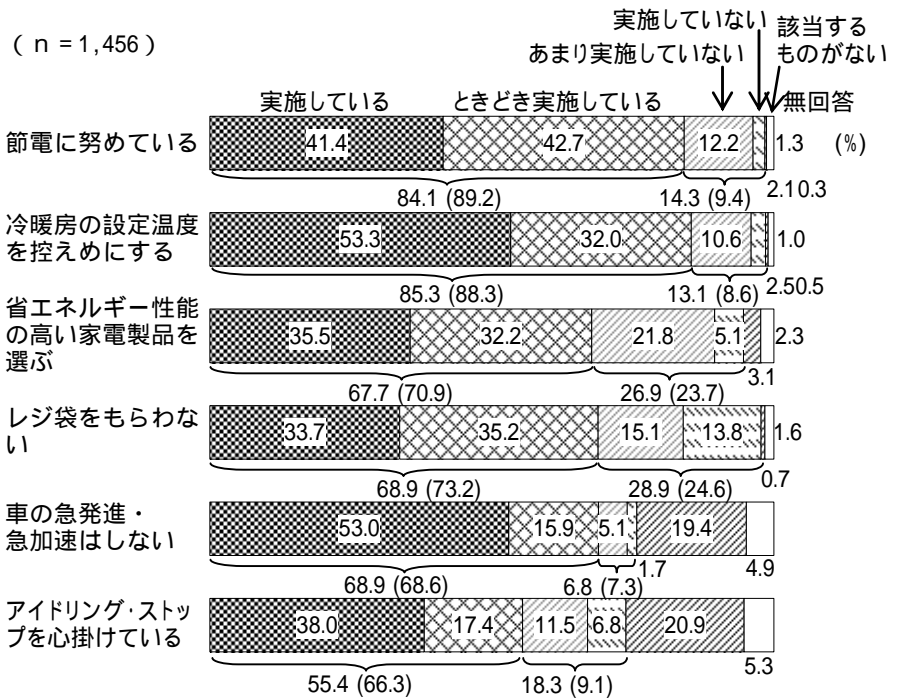


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(11) 普段の生活で行っている環境保全の取組

普段の生活で行っている環境保全の取組について、6つの項目に分けて聞いたところ、「実施している」は冷暖房の設定温度を控えめにする（53.3%）と車の急発進・急加速はしない（53.0%）が5割を超えて高く、以下、節電に努めている（41.4%）が4割を超え、アイドリング・ストップを心掛けている（38.0%）が約4割で続く。

一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない(計)』はレジ袋をもらわない（28.9%）が約3割、省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ（26.9%）が2割台半ばとなっている。

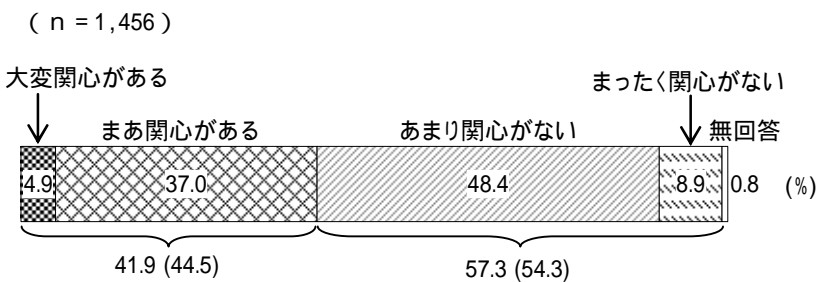


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(12) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

市民活動団体の活動や、ボランティア活動の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(4.9%)と「まあ関心がある」(37.0%)を合わせた『関心がある(計)』(41.9%)が4割を超えている。

一方、「あまり関心がない」(48.4%)と「まったく関心がない」(8.9%)を合わせた『関心がない(計)』(57.3%)は約6割となっている。

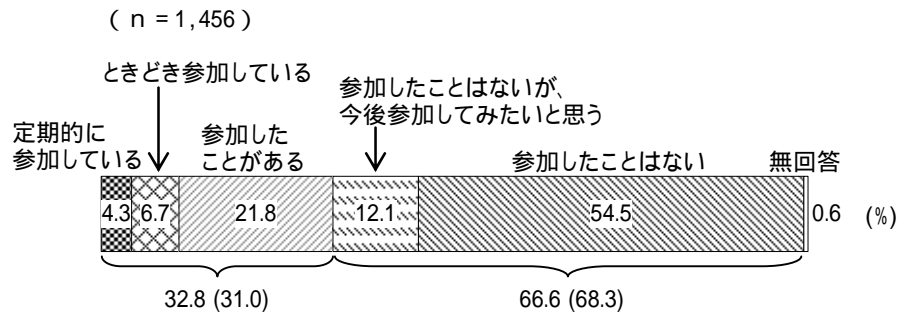


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(13) 市民活動団体の活動への参加経験

市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(4.3%)と「ときどき参加している」(6.7%)「参加したことがある」(21.8%)の3つを合わせた『参加したことがある(計)』(32.8%)が3割を超えている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(12.1%)は1割を超えており、「参加したことはない」(54.5%)は5割台半ばとなっている。

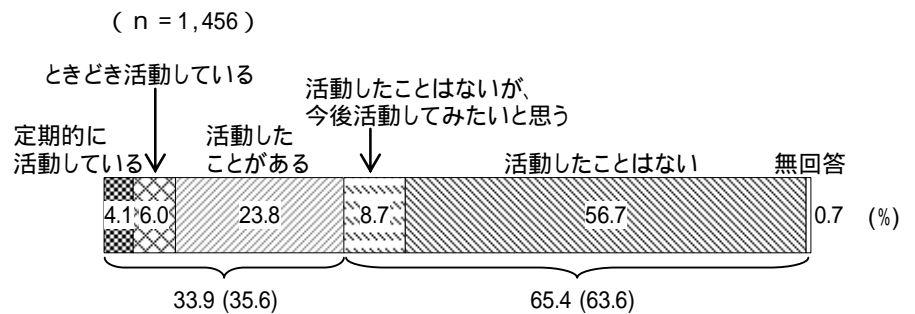


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(14) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に参加している」(4.1%)と「ときどき活動している」(6.0%)「活動したことがある」(23.8%)の3つを合わせた『活動したことがある(計)』(33.9%)が3割台半ばとなっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(8.7%)は約1割、「活動したことはない」(56.7%)は5割台半ばとなっている。

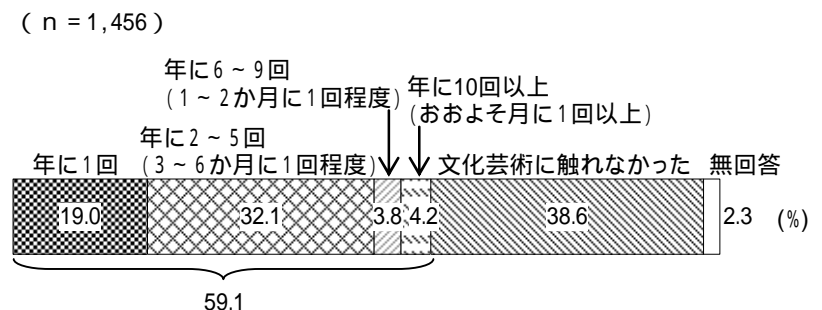


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(15) この1年間の文化芸術に触れた頻度

この1年間で何回くらい文化芸術に触れたか聞いたところ、「年に1回」(19.0%)と「年に2~5回(3~6か月に1回程度)」(32.1%)「年に6~9回(1~2か月に1回程度)」(3.8%)「年に10回以上(おおよそ月に1回以上)」(4.2%)の4つを合わせた『触れたことがある(計)』(59.1%)は約6割で高くなっている。

一方、「文化芸術に触れなかった」(38.6%)は約4割となっている。

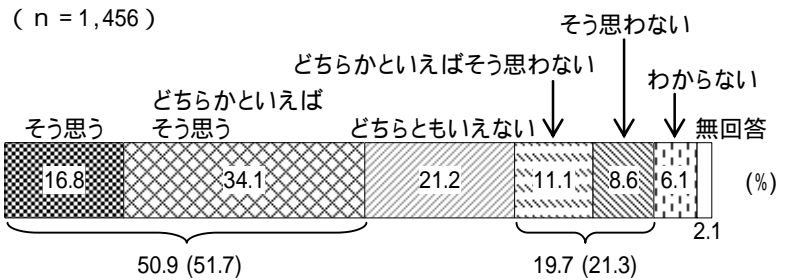


3 健康について

(1) 健康づくりに取り組むことができる環境

自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(16.8%)と「どちらかといえばそう思う」(34.1%)を合わせた『そう思う(計)』(50.9%)が5割で高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.1%)と「そう思わない」(8.6%)を合わせた『そう思わない(計)』(19.7%)は約2割となっている。

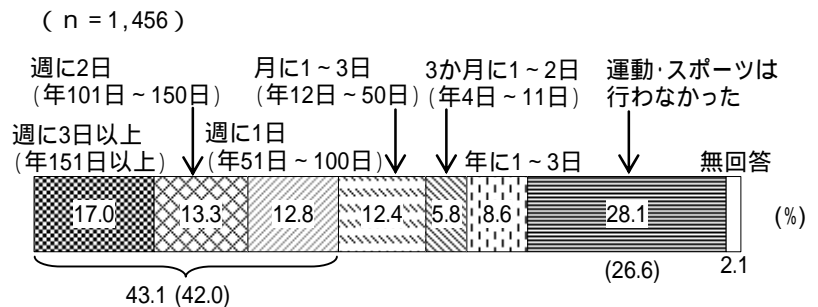


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(2) 健康づくりのための運動

健康づくりなどのために1年間に何日くらい運動やスポーツを行ったか聞いたところ、「週に3日以上(年151日以上)」(17.0%)と「週に2日(年101日~150日)」(13.3%)、「週に1日(年51日~100日)」(12.8%)を合わせた『週1日以上運動した(計)』(43.1%)は4割を超えている。

一方、「運動・スポーツは行わなかった」(28.1%)は約3割となっている。

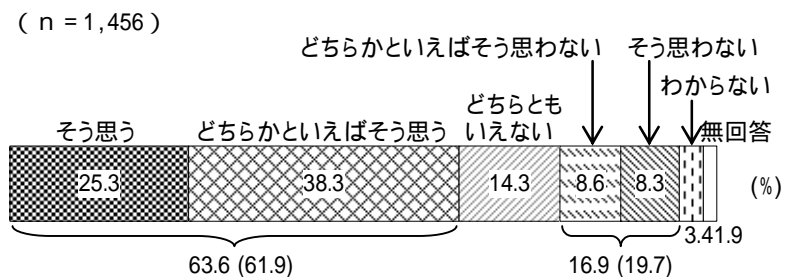


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(3) 安心して受診できる医療体制

住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(25.3%)と「どちらかといえばそう思う」(38.3%)を合わせた『そう思う(計)』(63.6%)が6割台半ばで高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.6%)と「そう思わない」(8.3%)を合わせた『そう思わない(計)』(16.9%)は1割台半ばとなっている。

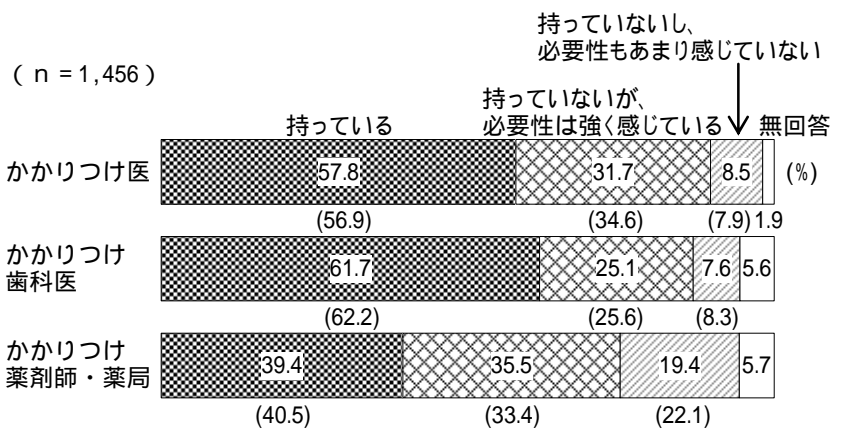


(4) かかりつけ医の有無

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は かかりつけ歯科医（61.7%）が6割を超え、かかりつけ医（57.8%）が約6割、かかりつけ薬剤師・薬局（39.4%）が約4割となっている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は かかりつけ薬剤師・薬局（35.5%）が3割台半ば、かかりつけ医（31.7%）が3割を超えている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は かかりつけ薬剤師・薬局（19.4%）が約2割となっている。



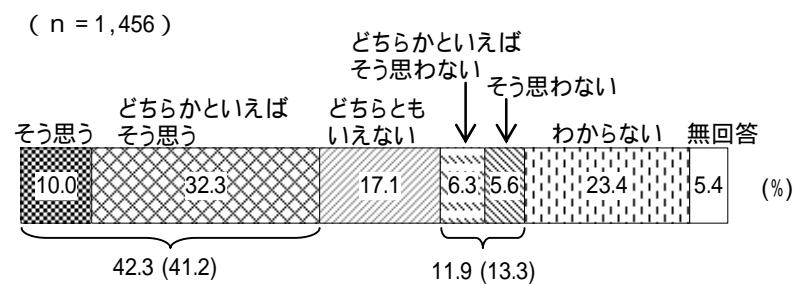
注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

4 福祉について

(1) 安心して子育てできる環境

自分が安心して子育てできる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(10.0%)と「どちらかといえばそう思う」(32.3%)を合わせた『そう思う(計)』(42.3%)が4割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(6.3%)と「そう思わない」(5.6%)を合わせた『そう思わない(計)』(11.9%)は1割を超えている。

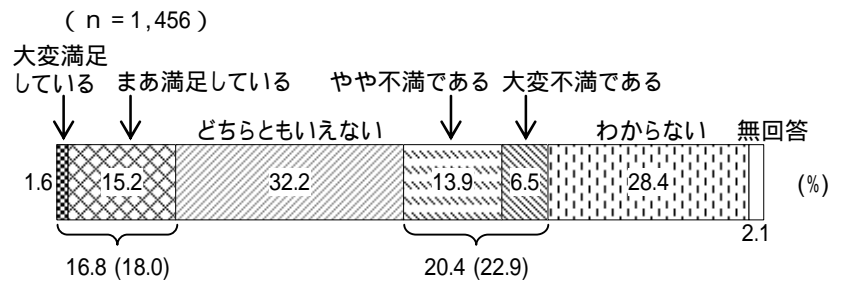


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策についてどう感じているか聞いたところ、「大変満足している」(1.6%)と「まあ満足している」(15.2%)を合わせた『満足している(計)』(16.8%)が1割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」(13.9%)と「大変不満である」(6.5%)を合わせた『不満である(計)』(20.4%)は2割となっている。

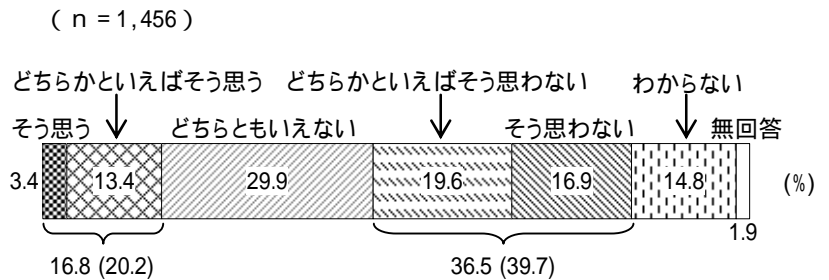


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(3) 安心して暮らせる地域社会づくりについて

地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.4%)と「どちらかといえばそう思う」(13.4%)を合わせた『そう思う(計)』(16.8%)が1割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(19.6%)と「そう思わない」(16.9%)を合わせた『そう思わない(計)』(36.5%)は3割台半ばとなっている。

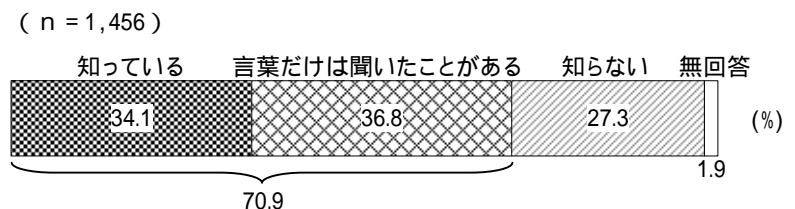


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(4) 「共生社会」の認知度

障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」(34.1%)が3割台半ばとなっており、これと「言葉だけは聞いたことがある」(36.8%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(70.9%)は7割となっている。

一方、「知らない」(27.3%)は約3割となっている。



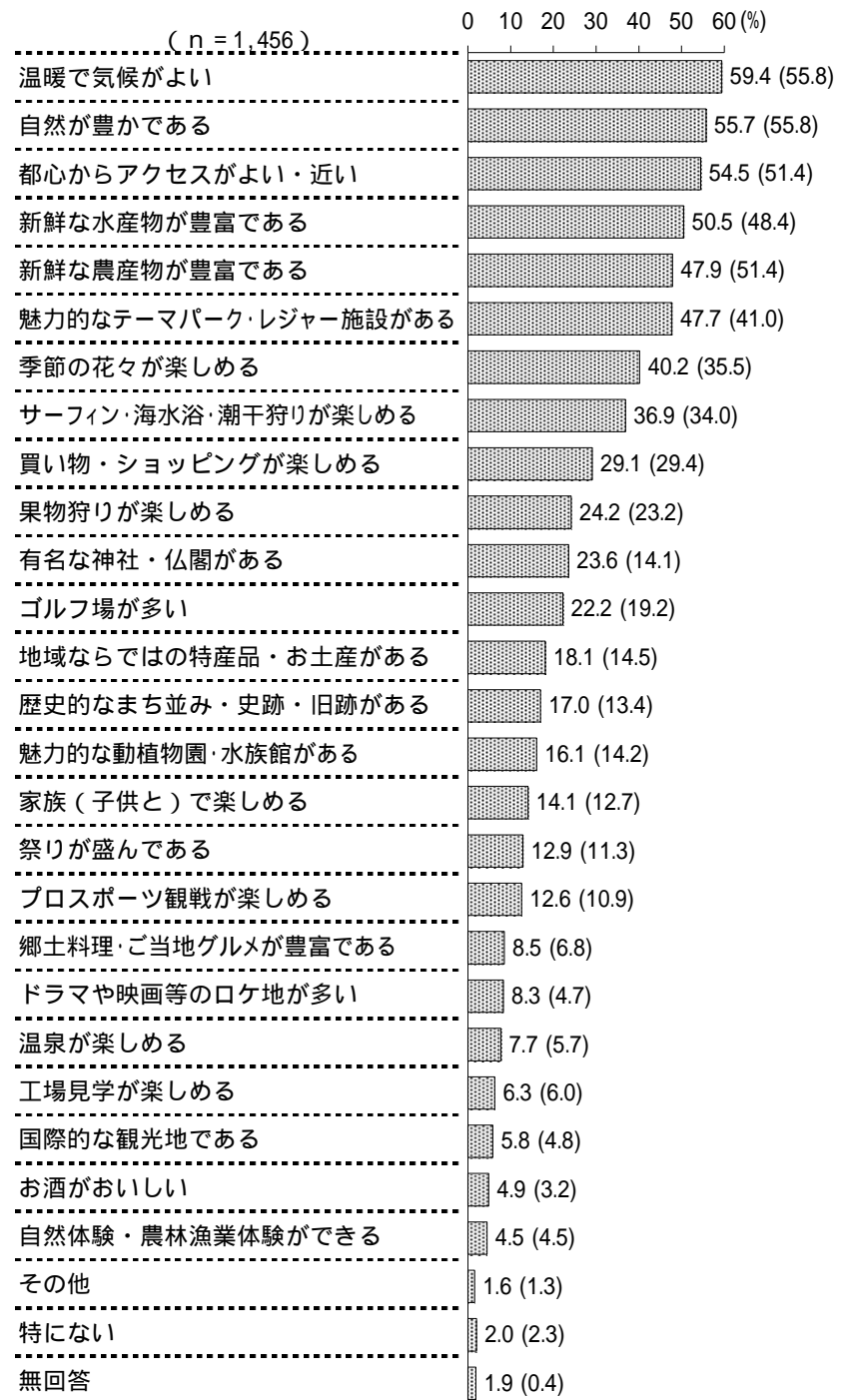
「共生社会」とは、具体的には、人々の生活や心において「障害者」という区切りのない社会です。

5 観光について

(1) 千葉県の魅力

(複数回答:いくつでも)

千葉県の魅力は何だと思うか聞いたところ、「温暖で気候がよい」(59.4%)が約6割で最も高く、以下、「自然が豊かである」(55.7%)、「都心からアクセスがよい・近い」(54.5%)、「新鮮な水産物が豊富である」(50.5%)、「新鮮な農産物が豊富である」(47.9%)が続く。

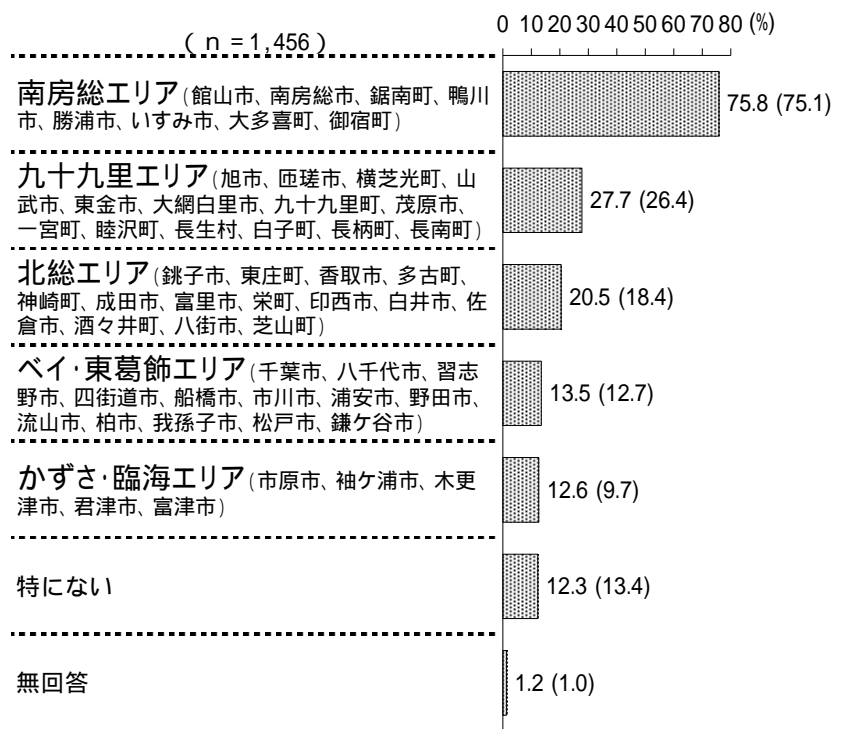


注) () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(2) 県内で旅行に行きたいエリア

(複数回答 : いくつでも)

県内で旅行に行きたいエリアはどこか聞いたところ、「南房総エリア」(75.8%)が7割台半ばで最も高く、以下、「九十九里エリア」(27.7%)、「北総エリア」(20.5%)、「ベイ・東葛飾エリア」(13.5%)、「かずさ・臨海エリア」(12.6%)が続く。

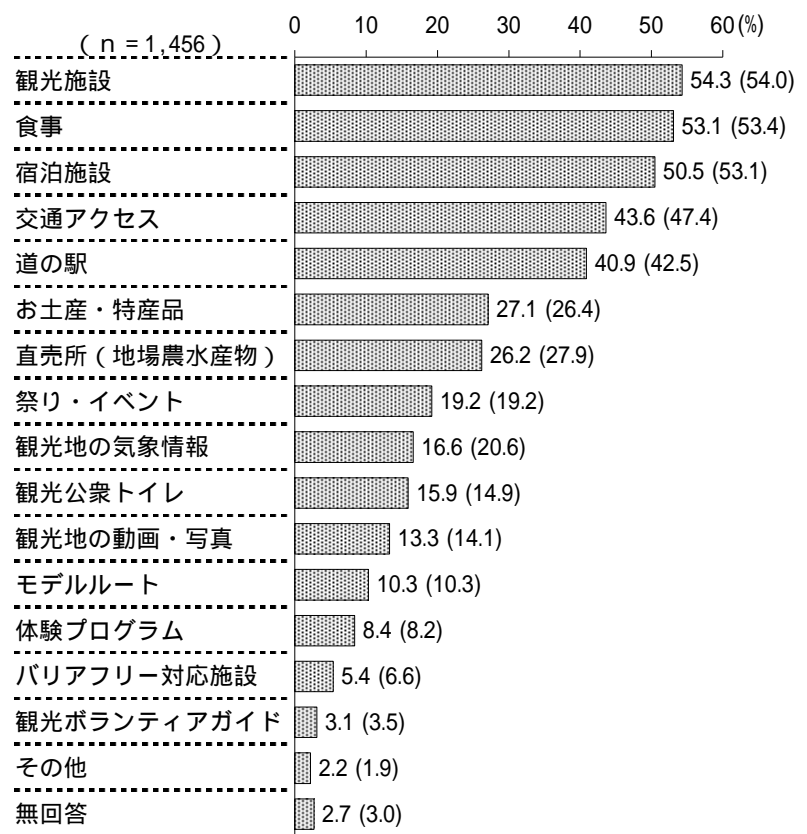


注) () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(3) 県内を観光する際に事前に知りたい情報

(複数回答 : いくつでも)

県内を観光する際に事前に知りたい情報は何か聞いたところ、「観光施設」(54.3%)が5割台半ばで最も高く、以下、「食事」(53.1%)、「宿泊施設」(50.5%)、「交通アクセス」(43.6%)、「道の駅」(40.9%)が続く。

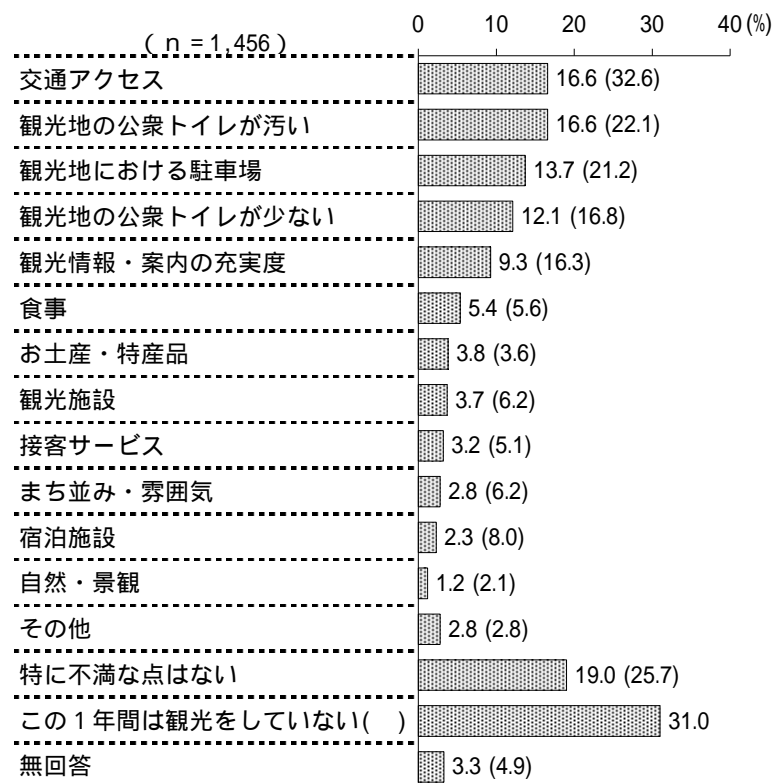


注) () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(4) この1年間に県内を観光した際の不満

(複数回答：いくつでも)

この1年間で県内を観光した際に不満を感じたことを聞いたところ、「交通アクセス」(16.6%)と「観光地の公衆トイレが汚い」(16.6%)が1割台半ばで最も高く、以下、「観光地における駐車場」(13.7%)、「観光地の公衆トイレが少ない」(12.1%)が続く。



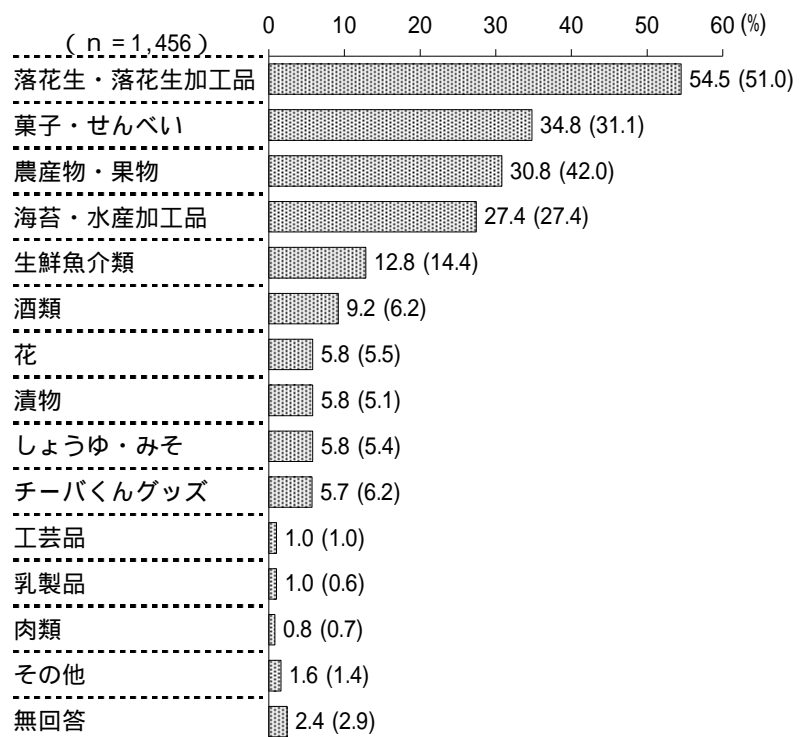
注) ()書きは、平成28年度調査の「千葉県内を観光する際に、不満な点を教えてください。(複数回答：いくつでも)」の結果を示している。

()平成28年度調査では、「この1年間は観光をしていない」の選択肢は設けていない。

(5) 県産品をお土産や贈答品として使う場合、贈るもの

(複数回答：3つまで)

県産品をお土産や贈答品として使う場合、何を贈るか3つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」(54.5%)が5割台半ばで最も高く、以下、「菓子・せんべい」(34.8%)、「農産物・果物」(30.8%)、「海苔・水産加工品」(27.4%)、「生鮮魚介類」(12.8%)が続く。



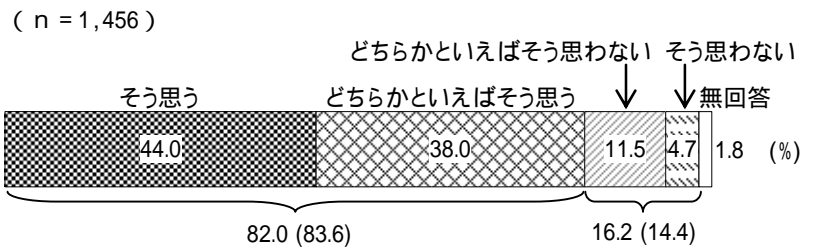
注) ()書きは、平成28年度の調査結果を示している。

6 千葉県産農林水産物について

(1) 千葉県産農林水産物の購入意向

千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(44.0%)と「どちらかといえばそう思う」(38.0%)を合わせた『そう思う(計)』(82.0%)が8割を超えて高くなっている。

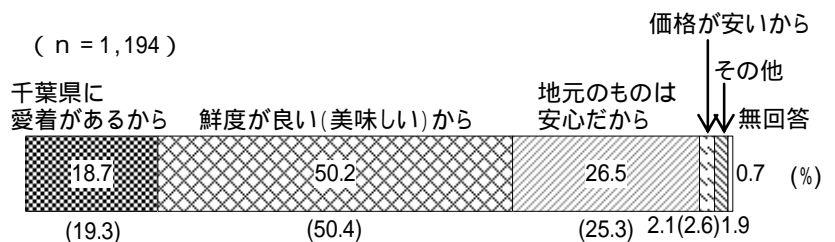
一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.5%)と「そう思わない」(4.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(16.2%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(1-1) 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

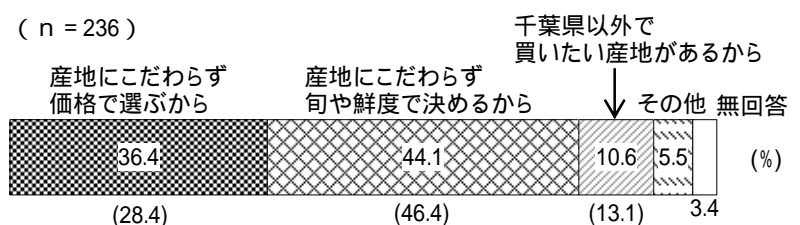
千葉県産農林水産物を購入したいと答えた1,194人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い(美味しい)から」(50.2%)が5割で最も高く、以下、「地元のは安心だから」(26.5%)、「千葉県に愛着があるから」(18.7%)、「価格が安いから」(2.1%)が続く。



注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(1-2) 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと答えた236人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」(44.1%)が4割台半ばで最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」(36.4%)、「千葉県以外で買いたい産地があるから」(10.6%)が続く。

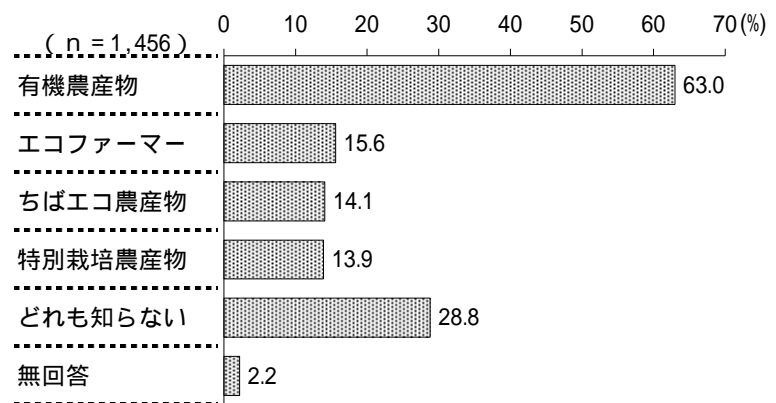


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(2) 環境にやさしい農産物の認知度

(複数回答:いくつでも)

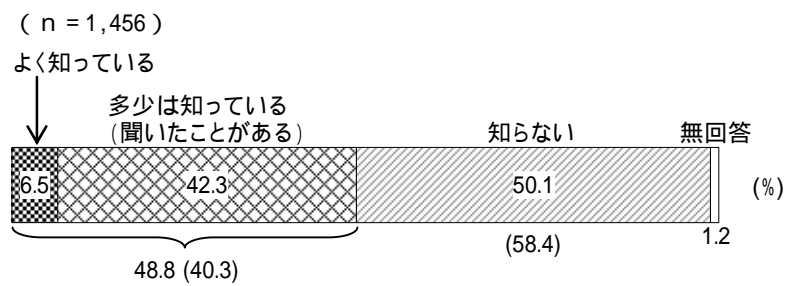
環境に配慮して生産される農産物や制度を知っているか聞いたところ、「有機農産物」(63.0%)が6割を超えて最も高く、以下、「エコファーマー」(15.6%)、「ちばエコ農産物」(14.1%)、「特別栽培農産物」(13.9%)が続く。



(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(6.5%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(42.3%)を合わせた『知っている(計)』(48.8%)が約5割となっている。

一方、「知らない」(50.1%)は5割となっている。



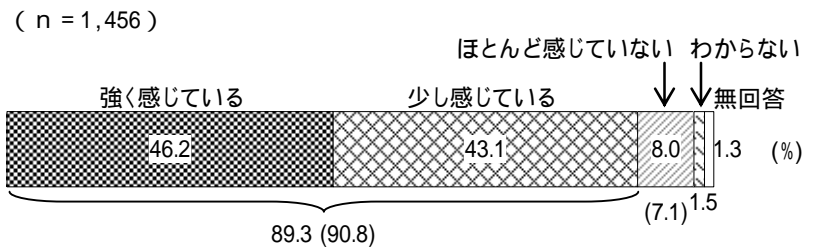
注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

7 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(46.2%)と「少し感じている」(43.1%)を合わせた『感じている(計)』(89.3%)が約9割で高くなっている。

一方、「ほとんど感じていない」(8.0%)は約1割となっている。

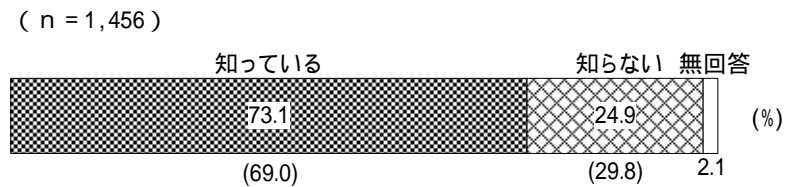


注) 下段の()書きは、平成28年度の調査結果を示している。

(2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

「避難勧告」「避難指示」の意味や違いを知っているか聞いたところ、「知っている」(73.1%)が7割を超えて高くなっている。

一方、「知らない」(24.9%)は2割台半ばとなっている。

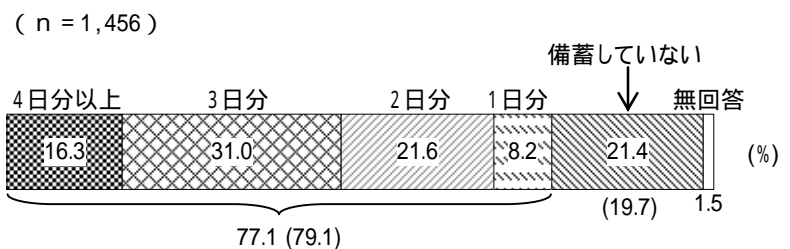


注) 下段の()書きは、平成28年度の調査結果を示している。

(3) 飲料水や食料の備蓄状況

飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(31.0%)が3割を超え、「2日分」(21.6%)が2割を超え、「4日分以上」(16.3%)が1割台半ば、「1日分」(8.2%)が約1割となっており、この4つを合わせた『備蓄している(計)』(77.1%)は約8割で高くなっている。

一方、「備蓄していない」(21.4%)は2割を超えている。

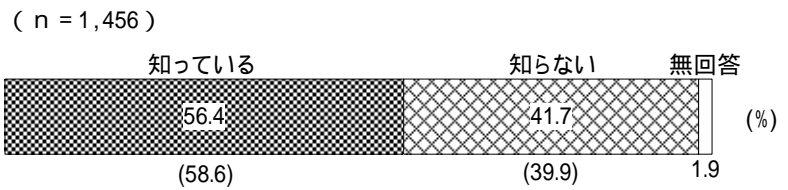


注) 下段の()書きは、平成28年度の調査結果を示している。

(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているかを聞いたところ、「知っている」(56.4%)が5割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」(41.7%)は4割を超えている。

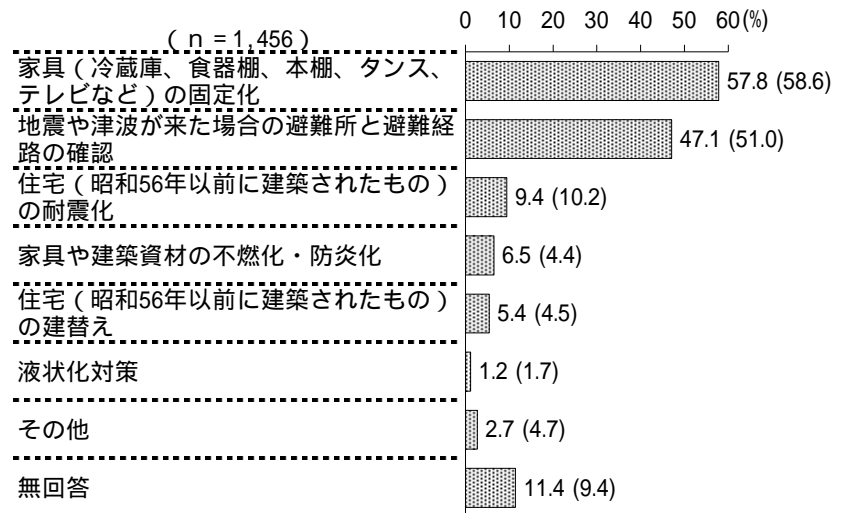


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(5) 地震の被害を防ぐための対策

(複数回答: いくつでも)

地震の被害を防ぐため、どのような対策を行っている(行う予定)か聞いたところ、「家具(冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど)の固定化」(57.8%)が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難経路の確認」(47.1%)、「住宅(昭和56年以前に建築されたもの)の耐震化」(9.4%)が続く。



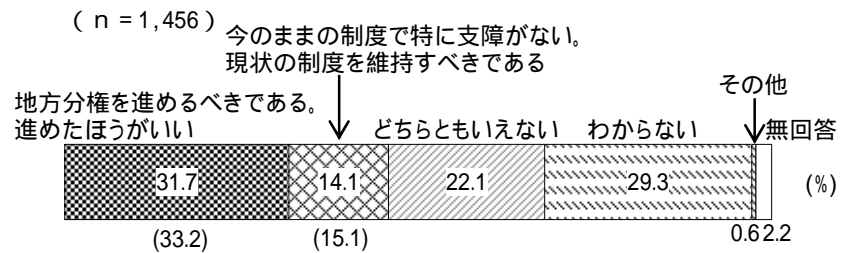
注)() 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

8 地方分権について

(1) 地方分権を今後さらに進めていくべきか否か

地方分権を今後さらに進めていくべきかどうか聞いたところ、「地方分権を進めるべきである。進めたほうがいい」(31.7%)が3割を超えており、「今のままの制度で特に支障がない。現状の制度を維持すべきである」(14.1%)は1割台半ばとなっている。

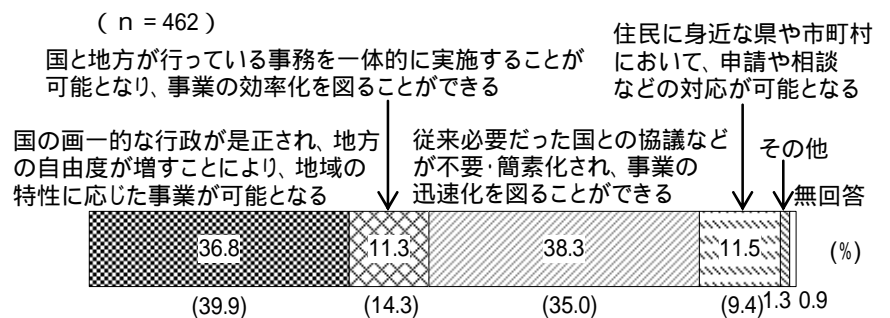
また、「どちらともいえない」(22.1%)は2割を超え、「わからない」(29.3%)は約3割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(1-1) 「地方分権」で期待する主な効果

「地方分権を進めるべきである。進めたほうがいい」と答えた462人を対象に、地方分権を進めることにより、主にどのような効果を期待するか聞いたところ、「従来必要だった国との協議などが不要・簡素化され、事業の迅速化を図ることができる」(38.3%)が約4割で最も高く、以下、「国の画一的な行政が是正され、地方の自由度が増すことにより、地域の特性に応じた事業が可能となる」(36.8%)、「住民に身近な県や市町村において、申請や相談などの対応が可能となる」(11.5%)、「国と地方が行っている事務を一体的に実施することが可能となり、事業の効率化を図ることができる」(11.3%)が続く。



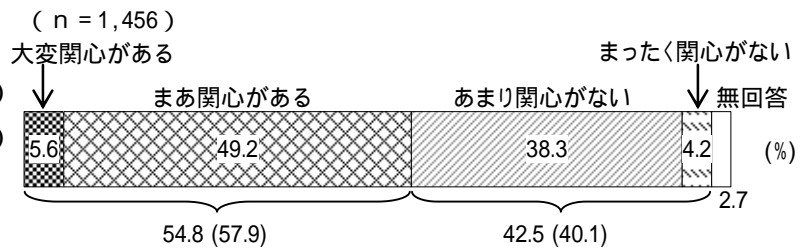
注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

9 広報・広聴活動について

(1) 県の施策や政策などについての関心度

県の施策や政策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(5.6%)と「まあ関心がある」(49.2%)を合わせた『関心がある(計)』(54.8%)が5割台半ばとなっている。

一方、「あまり関心がない」(38.3%)と「まったく関心がない」(4.2%)を合わせた『関心がない(計)』(42.5%)は4割を超えている。



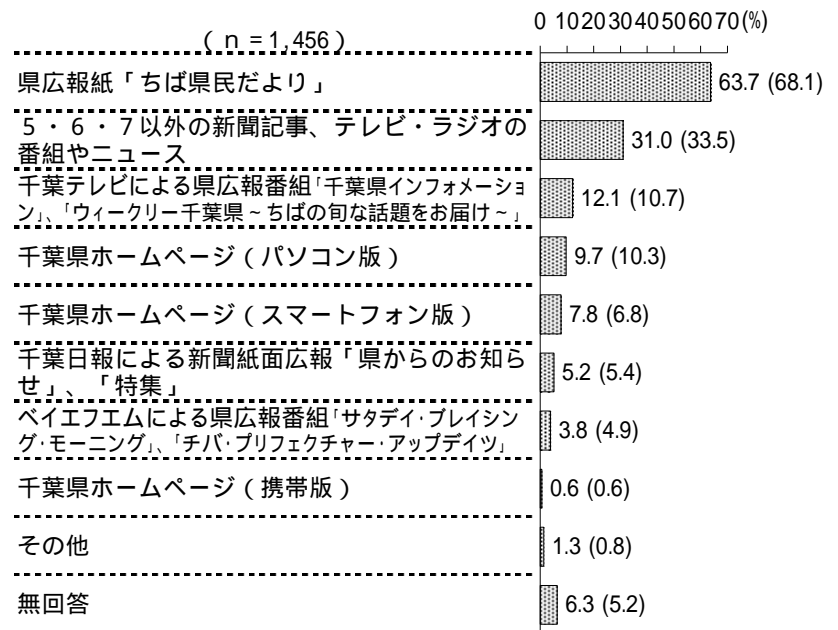
注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(63.7%)が6割台半ばで最も高く、以下、「5・6・7以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(31.0%)、「千葉テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」(12.1%)、「千葉県ホームページ(パソコン版)」(9.7%)が続く。

() 「5・6・7以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、5・6・7とは、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』、『特集』」、「千葉テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」、「ベイエフエムによる県広報番組『サタデー・プレイング・モーニング』、『チバ・プリフェクチャー・アップデート』」を指す。

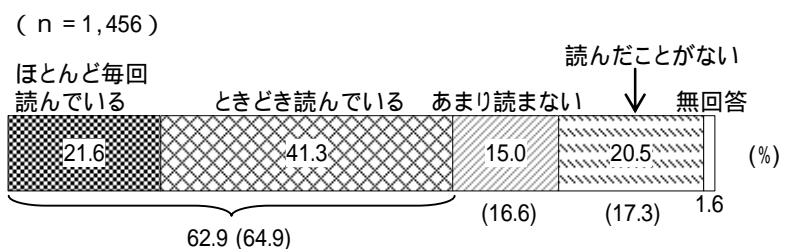


注) () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(21.6%)と「ときどき読んでいる」(41.3%)を合わせた『読んでいる(計)』(62.9%)が6割を超えて高くなっている。

一方、「あまり読まない」は15.0%、「読んだことがない」は20.5%となっている。

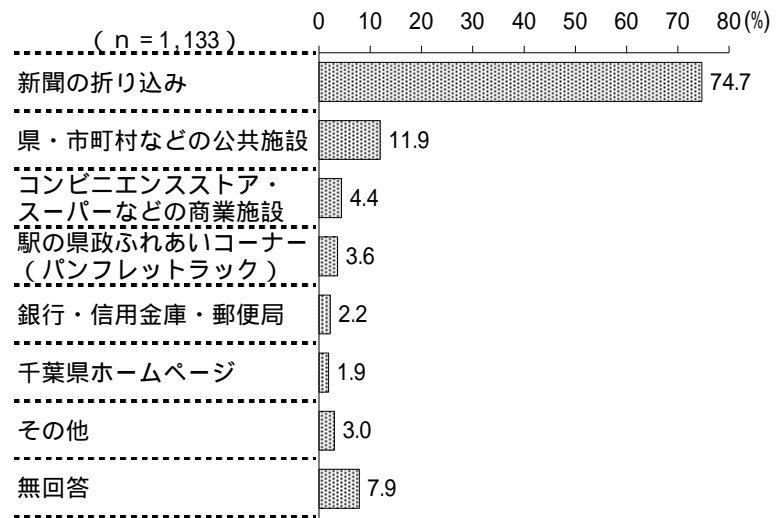


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(3 - 1) 「ちば県民だより」の入手場所について

(複数回答：いくつでも)

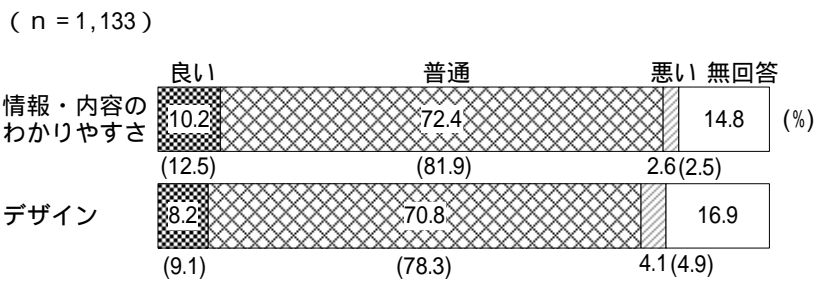
県広報紙「ちば県民だより」を「ほとんど毎回読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「あまり読まない」と回答した1,133人を対象に、「ちば県民だより」をどこで入手しているか聞いたところ、「新聞の折り込み」(74.7%)が7割台半ばで最も高く、以下、「県・市町村などの公共施設」(11.9%)、「コンビニエンスストア・スーパーなどの商業施設」(4.4%)が続く。



(3 - 2) 「ちば県民だより」の内容について

県広報紙「ちば県民だより」を「ほとんど毎回読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「あまり読まない」と回答した1,133人を対象に、「ちば県民だより」の内容について聞いたところ、情報・内容のわかりやすさの「良い」(10.2%)は1割、「普通」(72.4%)は7割を超えている。

また、デザインの「良い」(8.2%)は約1割、「普通」(70.8%)は7割となっている。

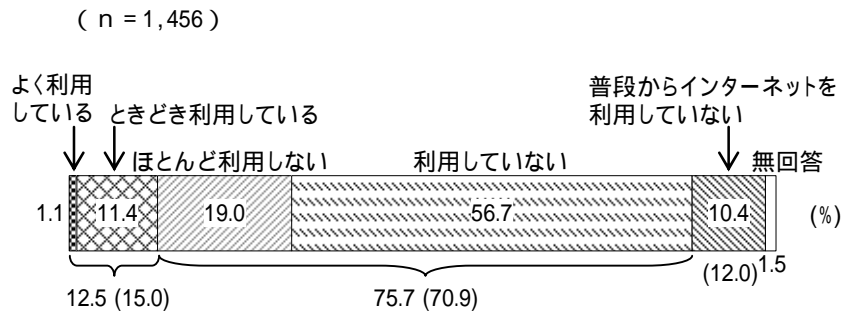


注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(4) 千葉県ホームページの利用頻度

千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(1.1%)と「ときどき利用している」(11.4%)を合わせた『利用している(計)』(12.5%)が1割を超えている。

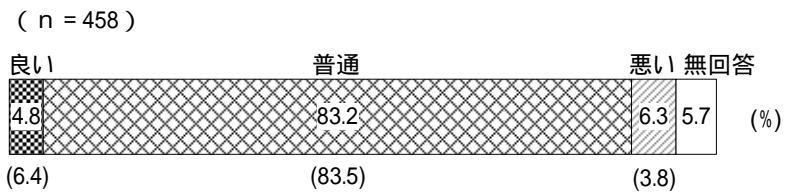
一方、「ほとんど利用しない」(19.0%)と「利用していない」(56.7%)を合わせた『利用していない(計)』(75.7%)は7割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 28 年度の調査結果を示している。

(4 - 1) 千葉県ホームページの情報・内容のわかりやすさ

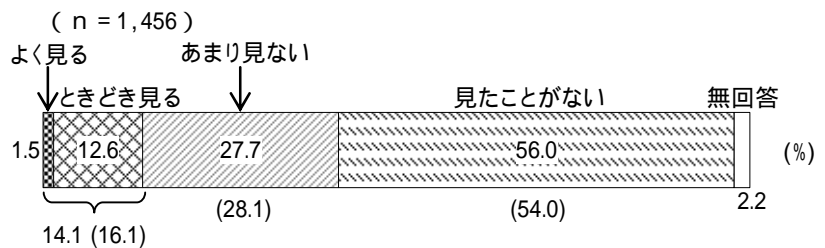
千葉県ホームページを「よく利用している」、「ときどき利用している」、「ほとんど利用しない」と回答した458人を対象に、千葉県ホームページの情報・内容のわかりやすさについて聞いたところ、「良い」(4.8%)が1割未満、「普通」(83.2%)が8割を超えている。



(5) 県の広報番組の視聴状況

県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(1.5%)と「ときどき見る」(12.6%)を合わせた『見る(計)』(14.1%)が1割台半ばとなっている。

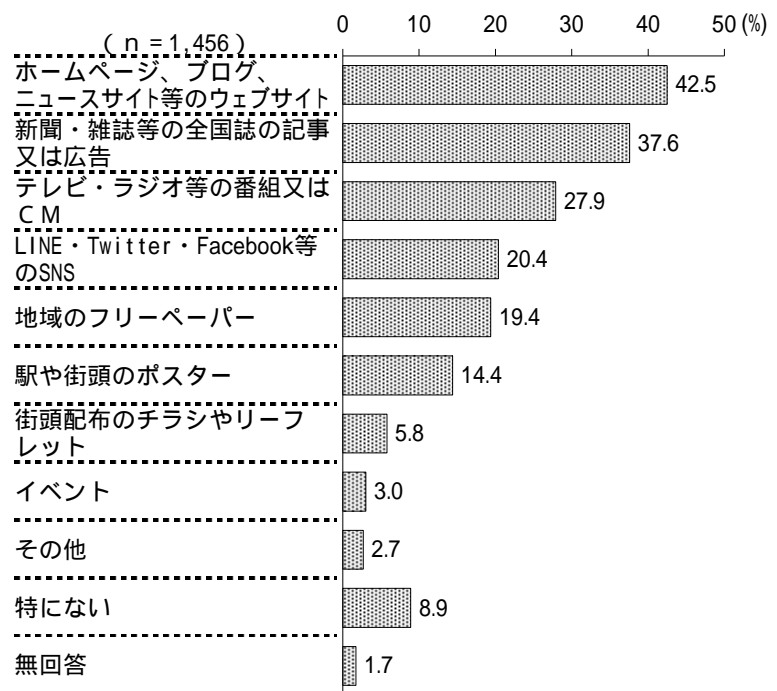
一方、「あまり見ない」(27.7%)は約3割、「見たことがない」(56.0%)は5割台半ばとなっている。



(6) 情報の入手媒体

(複数回答 : いくつでも)

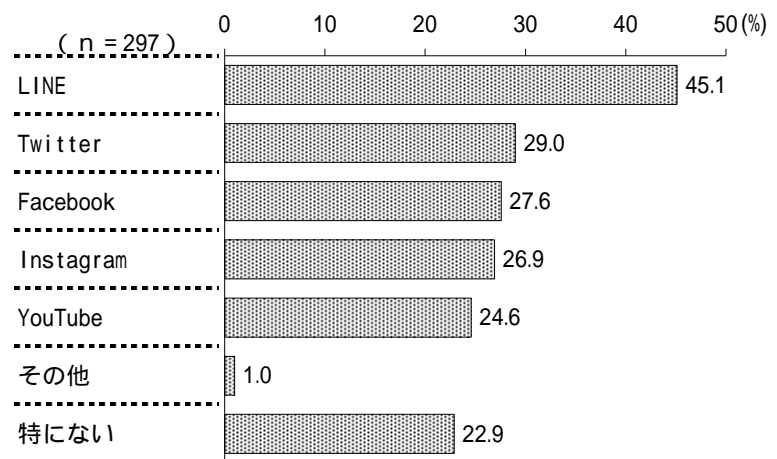
観光や食事、レジャーなどをする上で、どのような媒体を通じて情報収集をしているか聞いたところ、「ホームページ、ブログ、ニュースサイト等のウェブサイト」(42.5%)が4割を超えて最も高く、以下、「新聞・雑誌等の全国誌の記事又は広告」(37.6%)、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(27.9%)、「LINE・Twitter・Facebook等のSNS」(20.4%)、「地域のフリーペーパー」(19.4%)が続く。



(6 - 1) SNSの種類

(複数回答 : いくつでも)

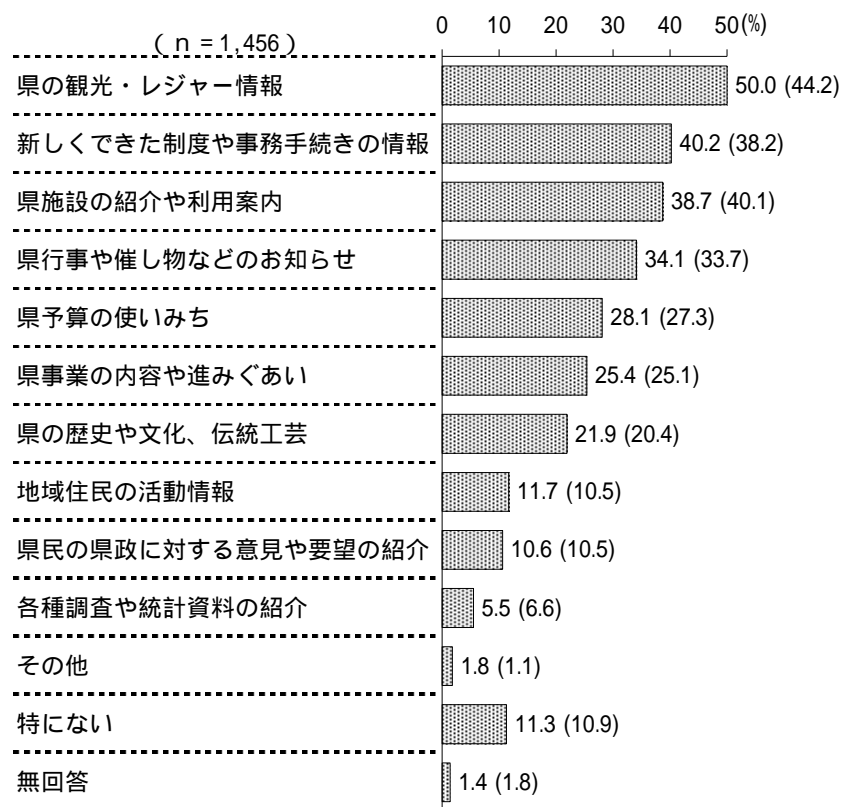
情報の入手媒体で「LINE・Twitter・Facebook等のSNS」と回答した297人を対象に、利用しているSNSの種類を聞いたところ、「LINE」(45.1%)が4割台半ばで最も高く、以下、「Twitter」(29.0%)、「Facebook」(27.6%)、「Instagram」(26.9%)、「YouTube」(24.6%)が続く。



(7) 県の知りたい情報

(複数回答 : いくつでも)

県のどのような情報が知りたいか聞いたところ、「県の観光・レジャー情報」(50.0%)が5割で最も高く、以下、「新しくできた制度や事務手続きの情報」(40.2%)、「県施設の紹介や利用案内」(38.7%)、「県行事や催し物などのお知らせ」(34.1%)、「県予算の使いみち」(28.1%)が続く。

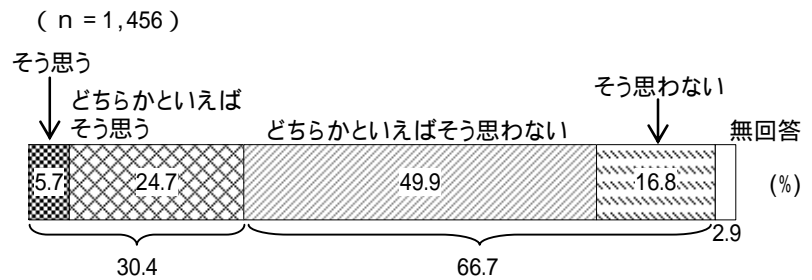


注) () 書きは、平成28年度の調査結果を示している。

(8) 県政への意見の反映

自分の意見を積極的に述べ、県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(5.7%)と「どちらかといえばそう思う」(24.7%)を合わせた『そう思う(計)』(30.4%)が3割となっている。

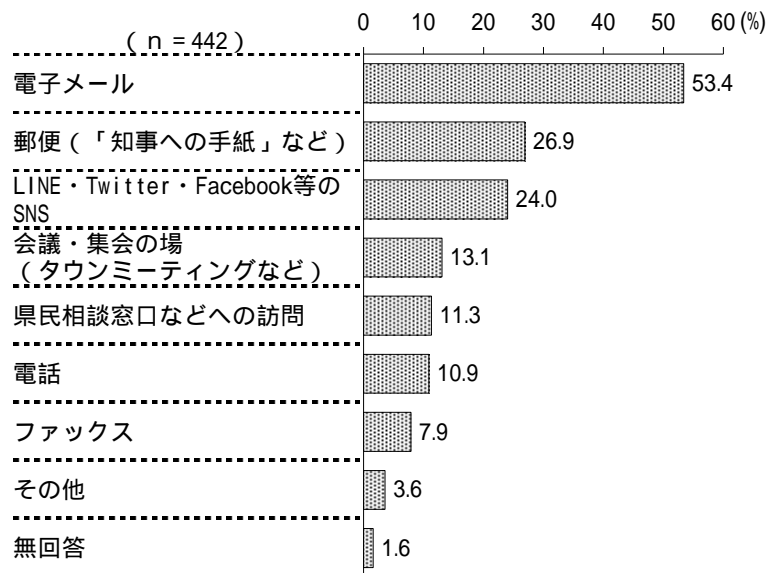
一方、「どちらかといえばそう思わない」(49.9%)と「そう思わない」(16.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(66.7%)は6割台半ばとなっている。



(8 - 1) 県に対し意見を述べる方法

(複数回答 : 3 つまで)

自分の意見を積極的に述べ、県政に反映させたいと思うと回答した442人を対象に、どのような方法で意見を述べたいか3つまで選んでもらったところ、「電子メール」(53.4%)が5割を超えて最も高く、以下、「郵便(『知事への手紙』など)」(26.9%)、「LINE・Twitter・Facebook等のSNS」(24.0%)、「会議・集会の場(タウンミーティングなど)」(13.1%)、「県民相談窓口などへの訪問」(11.3%)、「電話」(10.9%)、「ファックス」(7.9%)、「その他」(3.6%)が続く。



【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、305人から延べ415件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形(合計34項目)で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

県政全般に関する要望

他の都道府県に住んでいる方から、「千葉県に住んでいるの？うらやましい。」と言われるような県になれるといいと思っています。
(女性、50代、印旛地域)

道路を整備する

銚子連絡道路の早期開通。
(男性、20代、海匠地域)

便利な交通網を整備する

都心にアクセスする際に、鉄道の運賃が高すぎるため、わざわざ遠回りをしたりしている。これは私だけの意見でなく、周囲の意見でもあります。もう少し安くなってもらえるとすごく助かります。
(男性、20代、印旛地域)

県政の情報発信について

チーバくんを、全国的に有名にしてほしい。
(女性、50代、千葉地域)

次世代を担う子どもの育成支援を充実する

待機児童問題に真剣に向き合って欲しいです。市町村の行政に任せきりでなく、県で旗を振り取り組む必要があります。認可保育所のあり方についてしっかり協議したうえで、子ども目線の県政を要望致します。
(男性、40代、東葛飾地域)

学校教育を充実する

先生方の力不足、指導力の無い先生もいるので、子どもだけでなく指導者の研修会等も定期的に行ってほしいと思います。
(女性、65歳以上、東葛飾地域)

観光を振興する

館山市は、他の市にくらべてまだまだ遅れを取っているように思われる。観光面でもこれといった目玉的な物はないように思われる。是非気候の良さ、住民の心の温かさをアピールして頂きたい。
(女性、65歳以上、安房地域)

高齢者の福祉を充実する

老後が心配です。年金ももらえるかどうか分からず、税負担も多く今後の生活も不安です。
(女性、40代、山武地域)

医療サービス体制を整備する

近隣の他県と比べて、大規模な総合病院が少ない。特に船橋市は人口の割に少ない。早急に検討願いたい。何か計画があれば教えて欲しい。
(男性、65歳以上、葛南地域)

大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる

自衛隊機の騒音がひどい。国を守るための練習で仕方ないと思うが、飛行コースを毎回変えるとか、低空をさげるとかして何とか住民に対し配慮をしてもらいたい。
(男性、65歳以上、東葛飾地域)

農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する

千葉県産の農作物、水産物の良さをもっと県内外の人達にアピールしてもらいたい。他県と比較してもより優れ、種類も豊富であるはず。それを知らない千葉県民や他県の人が多いと思われず。
(男性、65歳以上、東葛飾地域)

犯罪防止対策をすすめる

今後も子供達が安全に暮らせる環境を、整えて欲しいと思います。(女性、30代、葛南地域)

【世論調査に関する意見(抜粋)】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、175人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋して記載した。

県民の考えに耳を傾けて、県政を少しでも良くしていこうというお考えに賛同します。より住み良い地域になりますことを心から願います。(男性、60～64歳、葛南地域)

県民の意見を聞くいい機会だと思うので、回数を増やして様々な世帯からの意見を聞いたほうがいい。(男性、30代、東葛飾地域)

丸を付ける場所が分からない。「番号に丸を付ける」など表記がほしい。(男性、20代、千葉地域)

調査内容に良く分からない所があるので見直しが必要です。(男性、65歳以上、千葉地域)

性別の質問を「男」「女」だけでなく、「その他」という項目があった方が良くと思います。社会的にジェンダーの問題が多く出てきているので。(男性、20代、東葛飾地域)

設問数が多いと思います。(女性、40代、葛南地域)

インターネットで回答できるようにしてほしい。(女性、30代、葛南地域)

調査結果とその結果に対する対処を公表して欲しい。(男性、60～64歳、印旛地域)

こういう「世論調査」をやりますということを「ちば県民だより」でお知らせしてほしいです。(女性、50代、葛南地域)

答えて下さった方には、何か、特典があっても良いと思います。(女性、50代、千葉地域)

他県はこういう調査をしているのでしょうか。他県と千葉県のアンケートの比較があると、千葉の特色が分かっておもしろいと思います。(女性、20代、東葛飾地域)

出来る事なら、もっと詳細な意見についても述べる場があるともっといいと思う。(男性、40代、千葉地域)